

特集 シン・女性経営者像を追って

— 前編 —

有限会社 **ゑびす屋旅館**
【鉄輪支部会員企業】 代表取締役 **本田 麻也** 氏

御宿ゑびす屋
湯屋えびす
別府市明礬4組
TEL. 0977-66-0338
TEL. 0977-67-5858
URL <https://www.e-ebisu.biz>



創業150周年祝賀会で感謝の挨拶をする本田代表



地元食材が詰まった地獄蒸し料理が人気



隣接の「湯屋えびす」では様々な温泉が楽しめます



コミュニティルームで食事のあとはウッドテラスで寛げます



本田麻也 代表取締役

“出会い”と“絆”を大切に育む老舗旅館の女将

2024年夏、別府・明礬温泉『御宿 ゑびす屋』の創業150周年祝賀会が行われました。会場の杉乃井ホテルには、同宿を愛する大勢の方々がお祝いにかけつけました。

6代目当主の本田麻也代表取締役は話します。「明治7年の創業以来、多くの方々に支えられながら重ねてきた歴史を振り返ることができ、感慨もひとしおでした」

本田代表は東京で子ども服のパタンナー（型紙をつくる専門職）として16年間勤務後、両親が大切に受け継いできた老舗宿を守ろうと決断。接客業は未経験ながらも兄弟と共に経営に携わり、2010年に代表に就任しました。入社から今日に至るまでの四半世紀、観光業を取り巻く環境が大きく変わっていくなか、ご苦労も多かったと思われます。

「時流を見ながら可能な限り対応してきましたが、想定外の事案が起きたときは宿の存続が危ぶまれるほどでした。まず思い浮かぶのが、2016年に発生した熊本・大分地震で明礬地区が深刻な被害を受けたことです」

この地震で本館が傾いた同宿は、2019年1月に思いきったリニューアルを敢行。滞り気味だった温泉蒸気の配

管を替え、部屋食を取りやめコミュニティルームで地獄蒸し料理を楽しむスタイルに移行しました。

「ウッドテラスの地獄釜で、お客さま自身も調理を楽しみます。野菜、鮮魚、お肉と、地元食材が美味しいと好評です」

その矢先に訪れたのが、世界中を震撼させた新型コロナウイルスの感染拡大です。あらゆる業界が沈むなか、本田代表はコツコツとできることから始めました。

「服飾の経験を生かそうと、手作りマスクに手紙を添えてお客さまに送りました。ささやかなことでしたが、思いのほか喜ばれたのはうれしかったですね」

コロナ禍が収束した今、この時の心づかいに感動したお客さまが戻ってきています。さらにリニューアルした宿泊スタイルの評判が広まり、新規層の利用客も増えてきました。「苦しい時期の支えになったのが、色々な会合で知り合った方々の存在です。豊の国商人塾、会長を務めている2720JapanO.K.ロータリーEクラブのメンバーなど、交流の中から多くのアドバイスやヒントをいただきました」

祝賀会では、150年分の“絆”も確認できたようです。

東京商工リサーチの調査によると、2024年の全国の女性社長は64万9,262人で、「女性社長率」は15.24%、調査を開始した14年前から3倍も増えているそうです。なかでも大分県は女性社長率が16.39%と全国平均を上回り、順位も全国8位となっています。

女性経営者の増加は、女性目線の経営方針や商品開発などによる職場環境の改善や市場の活性化が期待され、後継者問題でも事業承継の担い手としての重要性が増しています。

みらいしんきん同友会会員の女性経営者を取材してきました。

都道府県別女性社長比率			
順位	都道府県	女性社長率	前年
1	沖縄県	20.62%	20.580%
2	山梨県	17.360%	16.290%
3	東京都	17.210%	16.980%
4	茨城県	16.990%	16.770%
5	大阪府	16.820%	16.590%
6	福岡県	16.740%	16.530%
7	兵庫県	16.700%	16.320%
8	大分県	16.390%	16.320%
9	奈良県	15.900%	15.650%
10	広島県	15.790%	15.540%

2024年10月22日・東京商工リサーチ調べ

株式会社 **ア・ネット コトブキヤ**
【中津北央支部会員企業】 代表取締役 **吉峯 ひろ子** 氏

中津市下宮永746-3
TEL.0979-22-0100
URL <http://www.a-net-k.com>
※釣具屋.jp <http://www.turiguya.jp>



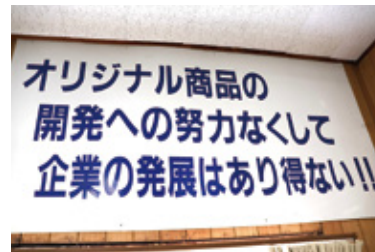
釣り人から高評価を得ているア・ネット コトブキヤのタモ網



丁寧に組み立て加工を行う女性従業員



「ひとけた会」の釣りイベントに参加



社内には創業者である父親のモノづくりへの思いを掲示



吉峯ひろ子 代表取締役

細やかなモノづくりに徹する釣り具メーカーの女性社長

新型コロナウイルス感染拡大時に密閉・密接・密集の“3密”を回避できるアウトドアレジャーのひとつとして、その魅力が見直された釣り。それまで釣りを敬遠気味だった女性やニューファミリー層を取り込み、業界に活況をもたらしました。「ピークは去りましたが、この時期に増えた新しい顧客層に釣りの楽しさをしっかり伝えていこうと、業界は意気込んでいます。当社としても、質の高い製品を発信していきたい」

こう話すのは、中津市の釣り具製造・卸・輸入専門店として知られる株式会社ア・ネットコトブキヤの代表取締役を務める吉峯ひろ子氏。法人設立後60期目の業歴を有する同社製品は全国一円の釣具店で取り扱われており、同時に釣り具通販サイト「釣具屋.jp」も運営しています。

ア・ネットコトブキヤの取り扱い製品は網、ビク、ウキ、エサ箱と多品種に及びますが、なかでも人気の高い主力商品が、魚を掬い取る時に使用するタモ網です。同製品は随所に釣れた魚を傷つけない工夫が施されており、軽くて丈夫で使い勝手がよいとベテランの釣り人にも評判です。

「ユーザーの希望によっては網の目を替えたりするなど、セ

ミオーダーで受注することもあります」と吉峯代表。社内には、創業者である父親が常々話していたモノづくりに対する方針「オリジナル商品の開発への努力なくして企業の発展はあり得ない」が掲示されており、製品に対するユーザー目線の熱量が伝わってきます。

「父が参加していた日本釣振興会の会員で構成される『ひとけた会』にも、女性初の会員として参加しています。“昭和ひとけた”生まれの先輩方が結成した歴史ある会ですが、今では世代交代が進み、貴重な情報交換の場になっています。親睦釣り大会で全国各地の釣り場にも足を運んでいます」

ところで同社を支える現場の従業員は、全員が女性です。取材当日も、ドリルやリベット等の工具を器用に使いこなしながら、丁寧な製品加工に集中していました。吉峯代表とも、円滑なコミュニケーションを交わされているようです。

「同業者の集まりである『ひとけた会』にしろ、従業員にしろ、まずは感謝の気持ちで“人を好きになる”ことですね」

ユーザーひとりひとりの声に耳を傾ける同社の製品づくりに対する心構えを、再確認することができました。